

臥龍が丘は緑なり

村松高校東京同窓会会報

平成20年(2008)新春号



能代川の楽新保広場 提供 羽下勢栄氏 (高12回)

手前正面のウライと呼ばれる柵により、進路を妨げられた鮭は左側のサケの路を遡り、水路の上流端には捕獲用の籠があって、1日50本~460本のサケが捕獲される。詳細は本文12~13頁に掲載。



東京同窓会の展望

東京同窓会会長 鈴木 多喜男 (高4回)

会長に就任して以来、約1年半経過いたしました、思っている事と実行する事とは大幅にかけ離れるものだと、つくづく実感している次第です。今後とも、東京同窓会の安定的発展には、幹事の皆様に何かとご尽力をお願い致さねばなりません。また、関東地区にお住まいの松高卒業生の状況を把握し、諸氏のお考えを調査することも必要になるだろうと考えております。

すでに先般の幹事会に於いて決定した関東地区の松高卒業生のデータを簡便に利用出来るよう加工しているところですが、種々のお考えを調査の上、了解を頂いた上で新規の会員を増やしていきたいと望んでおります。会の拡大を画策するには、まず東京同窓会を魅力溢れるものにして行かなければなりません。

今回の50回記念大会は、新大名誉教授の佐藤峰雄氏にお願いしたピアノコンサートが好評を博し、予想外の参加者を得たことは会長として望外の喜びであります。会員相互の親睦を深める手段としてはいろいろな方策があると思いますが、幹事のみならず会員の皆様にも広くご要望・ご意見を賜りまして、ますます充実した会の運営を心掛けていく所存であります。

また、本会則にも謳っておりますように母校との交流も深めて行きたく、毎年8月中旬に行われる本部同窓会には多数の皆様にご参加いただきたく存じます。ご希望の方は東京同窓会事務局までお知らせ下さい。

終わりに今年が天変地異の無きよう願うと共に、会員諸氏とご家族のご健勝をひたすらご祈念申し上げます。

新年のご挨拶

副会長 杵淵 政海 (高2回)

新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり東京同窓会の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

世の中は様々に変化をしていますが、人間は誰しもが向上心というものを持っています。

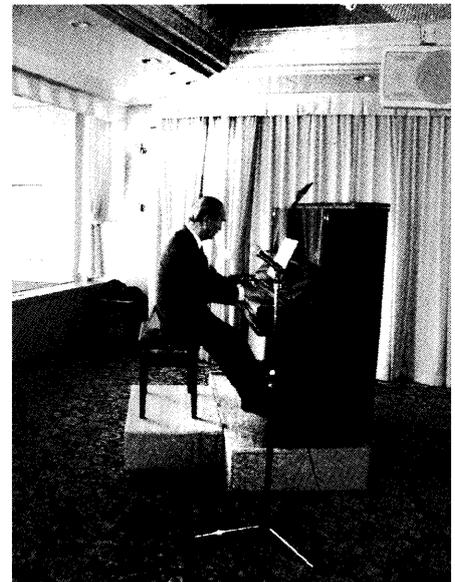
どんな境遇にあっても常にこの気持を失いたくありません。『明日の今日は昨日の今日ではない』という言葉聞いたことがあります、一人一人が目の前にある課題に挑戦していくことが開けた明るい未来につながると思っています。何ごともあきらめず前進していきましょう。

東京同窓会も全員が原動力となり会員が更に増え、総会への参加者も増加するよう、そして活力ある同窓会となるよう協力し合っていきましょう。今年は北京オリンピックの年です。あきらめず明るい年になるよう願っております。本年もよろしくお祈りいたします。

謹んで新年の

ご挨拶を申し上げます

- ◎ 副会長 伊藤 勇五 (旧中33回)
- ◎ 副会長 斎藤 和男 (旧中33回)
- ◎ 副会長 渡辺 八郎 (高3回)
- ◎ 副会長 金子 鶴男 (高5回)
- ◎ 副会長 深見 洋子 (高7回)
- ◎ 会計監事 佐久間 英輔 (高6回)
- ◎ 会計監事 安達 繁子 (高20回)
- ◎ 総務委員長 沢出 赳允 (高6回)
- ◎ 財務委員長 塚田 勝 (高8回)
- ◎ 広報委員長 大橋 貞夫 (高10回)
- ◎ 事務局長 石黒 四郎 (高9回)



佐藤峰雄先生の演奏と左は会場風景

思いがけないショパンに触れて

高地 彰 (高8回)

平成19年度「村松高校東京同窓会・50回大会」はかつてない興奮と盛況でした。2回生(昭和25年卒)が去年より一挙に13人増えたのは、同期の出世頭ともいべき佐藤峰雄氏(新大名誉教授)のご出席があったからでもありましょう。

ところで佐藤先生のショパンの演奏は良かったですね。同窓会始まって以来のイベントではなかったでしょうか。名誉教授の演奏を聴けるとは思ってもいませんでした。朴訥なお人柄と、学問を積んだ人特有の奥行きを感しました。

短いプレリュードのあとのノクターンを聴いたとき、「ああ、第2番嬰ハ短調<遺作>だ」と感じましたが、佐藤教授は演奏前に、「ノクターンの初期の頃の作品です」と仰って演奏を始められました。

この曲は普通、ノクターンの演奏ではいつも全21曲の最後のほうに置いてあるので、無学な小生はこれまで晩年の作品だとばかり思っていました。教授のお話を聴いて、帰宅するや音楽之友社の『作曲家別名曲解説ライブラリー「ショパン」』を見ましたら、やはり初期の作曲なんですね。作品番号は付いておらず、嬰ハ短調KKIVa-16とありますので、これは番外ということなのでしょう。作曲は初期の1830年(余計なことですが天保元年)で、発表は彼の死後29年目の1875年とありました。いやはや不明を恥じたことです。同時に、良い勉強をしました。

ショパンは、特にノクターンの最初の作品9-1を含む前半の10曲とこの遺作は好んで何種類ものソースを聴いていますが、邦人の仲道郁代や田部京子もよく聴きます(仲道さんは昭和56年の日本音楽コンクール第一位以来のファンです。当時、桐朋女子校三年生の美しく初々しい乙女でした!)

しかしこの遺作「レント・コン・グラン・エスプレッシオーネ」は、いつ聴いても甘いノスタルジーと、胸を掻きむしられるような切なさや寂寥感があり、ショパンが「ピアノの詩人」といわれた所以が分かるような気持ちです。

当日、世話人の杵渕さんも気の毒そうに仰っていましたが、やはりグランドピアノでなかったのが残念でした。また、天井の低い会場で、ピアノの上に照明を置き、しかも音をマイクで増幅するということまでしなければならなかったのは痛恨の極みでしたね。その悪条件にもかかわらず、佐藤教授は真摯で誠実な演奏を聴かせて下さいました。本当にうれしいことでした。終わりに、氏の益々のご健勝をお祈りし、こういう企画を盛りこんで下さった幹事諸氏にも大いに感謝申し上げます。

都心に響く松高の校歌

佐藤 信三 (高6回) 新潟市在住

その日、6月16日は、夏の太陽が眩しい東京での素晴らしい一日の出来事でした。正に都心中の都心で時節柄、緑がいっぱいの皇居の柱に隣接した千代田区大手町のKKRホテル10階「瑞宝の間」に於いて県立村松高校(旧中、旧女学校を含む)のOB、OGを中心として総勢130人余りが参加して「東京同窓会」が開催されたのでした。

特に今年は、同会が創設されて50周年という永い星霜を経た記念すべき大会と云うことでした。私が参加することになったのは、たまたまさいたま市在住の妹、高岡五百子(高12回)が同会の役員をしており、是非参加して欲しいとのことでその機会に恵まれた次第です。

当日のプログラムは第一部から第三部までで構成され、第一部の総会は、会長の鈴木多喜男(高4回)さんのあいさつ、相田松高同窓会長、小島学校長のあいさつなどの他、各委員会活動報告などの議事がありました。

第二部は50周年を記念しての演奏会「ピアノ・レクチャーコンサート」として、新大名誉教授の佐藤峰雄先生(高2回)を迎えて行われました。佐藤教授は、ご存知の方が多いので詳細は省略しますが、新大に於ける音楽のオーソリティで音楽関連学会、演奏活動、出版物等々、数多い実績をお持ちの方であります。当日は特に各曲目、作曲家についてのレクチャーを交えながら、ショパンの「ノクターン」、グリークの「春に」など多くの名曲が演奏されて、参会の方々に「ピアノ」とは、これだというような名演奏であり、言葉で言い表せない感銘を覚えたのは、私だけではなかったと思います。私事で恐縮ですが、生田流のお琴を練習している一人として改めて「ピアノ」の音色の素晴らしさを実感いたしました。

そして第三部、待望の懇親会(待望と書きましたのは、私が酒好家であることと、加えて何十年振りかでお会いする方々との親睦ができることを意味します。)に移り、声高らかに乾杯した後、お楽しみ抽選会などを交えながらしばし懇談、懇親が行われ、懐かしい方々との交流を深めたのであります。そこで表題としました校歌“普く照らす天つ日の……”や応援歌“緑濃き臥龍が丘に……”“臥龍原頭幾星霜……”“松城健児六百が……”の歌声が都心の会場に流れ、参加者それぞれが青春の一頁を熱く蘇らせたのであります。

さて、私は高6回卒ですが、同級の幹事である沢出尠允さん、畔田昭義さん始め先輩、後輩の方々との交流を特に深めたのであります。またBSNの大倉修吾(高12回)さんも飛入りでお得意の“友よ”を熱唱され、宴会に花を添えられました。終わりに、当日の同窓会を早くから企画し運営にご苦勞された鈴木会長さん始め役員の皆様方に心から厚くお礼を申し上げます。

松高東京同窓会・第50回記念大会報告

平成19年6月16日(土)正午、二日前に梅雨入りが発表されたにも拘らず日本晴れの下、緑濃き皇居の杜に隣接した「KKRホテル東京」に於いて、新潟県立村松高等学校東京同窓会第50回記念大会が開催された。

同伴者を含む会員119名、同窓会本部の相田会長、阿部、浅田両副会長、高野学校教育課長、小島校長を迎え、総勢127名の出席となった(津川高校より2名)。

定刻の正午、深見(高7)・林(高25)両幹事の司会により開幕。金子実行委員長の開会宣言、鈴木会長挨拶、相田同窓会長、小島校長のご挨拶に続き、今回、初めて高野敏郎(高20)学校教育課長にご出席を願い、ご祝辞を頂戴した。その後、総務・財務・広報各委員長報告を行い、それぞれ承認されて第一部を終る。

第二部は、新潟大学名誉教授である佐藤峰雄(高2)先生のショパン「ノクターン」演奏会の始まりである。

最初に杵渕幹事から佐藤先生のご紹介があり、いよいよ50回記念の目玉行事である演奏が始まった。少し暗い寂しさが込み上げてくるような想いで聞き入って居たが、やはりグランド・ピアノの演奏でなかったのが残念ではあった。今後とも、今回のように素適な実りある企画を継続して行きたいものである。

第三部は伊藤副会長の乾杯音頭で懇親会の開始となる。お互い一年振りの再会に笑顔を交しながら旧交を温め、会場は一段と賑やかさを増していく。

やがて恒例の会員持ち寄り賞品の抽選会も悲喜交々のうちに進み、校歌・応援歌の熱唱で余韻醒めやらぬまま今大会はお開きとなる。余勢を駆っての二次会も、68名の参加を得て大賑わいであった。

新春に際し、会員諸兄弟のご健在を心より祈ってやまぬ。

大会実行委員会 記

東京同窓会・第50回大会収支決算書

平成19年6月16日(土) 於:KKRホテル東京

収入の部					支出の部			
項目	内訳	人数	金額	合計	項目	内訳	金額	合計
①懇親会費		121名	8,000	968,000	①懇親会費	127名		1,013,475
	男子83名				②二次会費補填			7,000
	女子38名				③アトラクション謝礼			70,000
②祝儀				100,000	④本部対応費			13,986
	同窓会本部	4名	40,000		⑤準備費			94,116
	祝50回大会		30,000			会議費	13,840	
	高橋敏郎氏		10,000			切手・はがき	55,800	
	佐藤峰雄氏		20,000			コピー	8,420	
③会員寄付		2名		4,000		名札・ケース等	14,856	
	築取正通		2,000			会報・資料送料	1,200	
	石本芳雄		2,000					
合計				1,072,000	合計			1,198,577
					収支残高			-126,577

財務委員長 塚田 勝 報告



校歌応援歌の熱唱



熟女の熱唱



名司会振りの深見・林さん

第50回 東京同窓会出席者名簿

平成 19 年 6 月 16 日(土) 於 KKR ホテル東京 10F 新潟県立村松高等学校東京同窓会

来 賓 (6名)	旧中学校 (2名)	高 校	高 校	高 校
村松高校同窓会 相田 豊 会長様 (高 9回)	33 伊藤 勇五	03 小池 生夫	08 石本 芳雄	12 新井 三郎
	33 斎藤 和男	03 佐藤 八重	08 五十畑 キヨ	12 安部 實
村松高校同窓会 阿部 律雄 副会長様 (高20回)	旧女学校 (7名)	03 白石 キヨ	08 岡部 ユキ	12 今井 英雄
	25 一氏 愛子	03 瀬倉 武志	08 片柳 ムツ	12 岩野 忻史
	25 小林 早月	03 長谷川 五郎	08 木村 孝子	12 大倉 修吾
	25 近藤 昌子	03 武藤 寛	08 久我 マキ	12 近藤 洋輝
	25 酒井 エミ	03 渡辺 八郎	08 小出 博三	12 高岡 五百子
村松高校同窓会 浅田 光雄 副会長様 (高20回)	25 佐藤 治	04 梶屋 庄佑	08 鈴木 輝雄	12 徳永 道子
	25 佐藤 玲子	04 加藤 清治	08 高地 彰	12 中村 雅臣
	25 鈴木 節子	04 河辺 徹夫	08 塚田 勝	
		04 斎藤 英子	08 長谷川 吾一	13 金子 健二
		04 志佐 致	08 治田 レイ子	
村松高等学校校長 小島 正芳 様	高 校 (107名)	04 下野 文幹	08 松尾 正春	14 木村 寿一
	02 川上 博萬	04 杉山 喬	08 山崎 輝雄	14 山田 俊治
	02 杵渕 政海	04 鈴木 健司	08 山西 愈佐子	
	02 小鍛冶 直昭	04 鈴木 多喜男	08 吉井 清	16 阿久津 万左子
	02 斎藤 慶五	04 辻川 登	09 阿部 勇	16 今井 貞夫
	同伴者	04 弦巻 等	09 石黒 四郎	16 郡司 正大
	02 篠川 恒夫	04 湊 久直	09 熊倉 富次	16 斎藤 智恵子
	02 坪谷 次郎	04 吉井 久夫	09 増田 訓英	16 服部 修治
	02 星野 孝子	05 阿部 ミサ子	09 間藤 謙一	
	02 堀川 俊郎	05 金子 鶴男	09 松本 知子	18 青木 敏和
新潟大学名誉教授 佐藤 峰雄 様 (高 2回)	02 真島 節朗	05 雲村 俊造	10 朝倉 克巳	18 笠原 静夫
	同伴者	05 佐々木 恵美	10 今井 孝宏	18 斎藤 正義
	02 丸山 貞次	05 向山 律子	10 大橋 貞夫	18 高岡 英治
	02 三国 弘子	05 山崎 豊吉	10 小島 典子	18 羽下 力
	02 村川 恭平	06 畔田 昭義	10 近藤 尚志	18 三室 茂和
	02 村川 五郎	06 佐藤 信三	同伴者	
	02 村川 五郎	06 沢出 赳允	10 小日山 芳栄	20 安達 繁子
	02 築取 正通	06 佐藤 令子	10 新保 優	20 三宅 紀子
	02 山田 羊歯子		10 関谷 雄二	
			10 高岡 雄三	25 林 信子
津川高校 (2名)		07 加藤 喜七		
多田 治夫	02 丸山 貞次	07 深見 洋子		
宮本 光喜	02 三国 弘子	07 八木 又一郎		
	02 村川 恭平			
	02 村川 五郎			
出席者計 127名	02 村川 五郎			
(内訳)	02 築取 正通			
会員 116名	02 山田 羊歯子			
会員同伴者 3名				
来賓 6名				
津川 2名				

平成 20 年度 松高東京同窓会開催のお知らせ

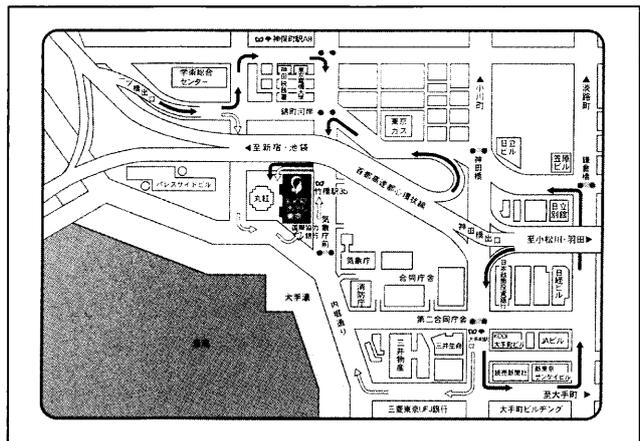
◎日 時 20年6月21日(土)・正午開催

◎場 所 KKR ホテル東京

◎住 所 千代田区大手町1-4-1

TEL 03-3287-2921

- 交通**
- 地下鉄東西線竹橋駅下車
(大手町駅寄改札から専用3b出口直結)
 - 地下鉄千代田線大手町駅C2出口より5分
 - 都営地下鉄神保町駅A9出口より5分



新潟県立村松中学校設立の頃

県立村松高等学校長 小島 正芳

て「野球の如き、硬い球を投げたり打ったりする危険な競技は禁止する」と命令した。仕方なく生徒は止めざるを得なかった。

このエピソードからも、林校長の謹厳実直ぶりが窺える。「質実剛健」の校風を、自ら先頭に立って確実に行われるよう指導している。初代校長が強い信念と情熱を持って村松中学校の生徒を導いていったことにより、「質実剛健」の揺るがない校風が築かれていったといえる。

郷里松江から遠く離れた異郷の地ともいえる村松で、林校長が理想を高く掲げ、教育に情熱を注ぐことが出来たのも、村松藩以来の歴史と伝統に裏付けられた教育の土壌があったからだと思われる。士族の子弟を中心とした生徒は実に真面目で確りしており、向学心に溢れていた。また、城下町村松の清潔で礼儀正しい気風も気に入った林校長は、村松は教育を行うに理想の地と考えるに至ったようである。

林校長は、創立十周年記念誌に着任した頃を回顧して、次のように述べている。

村松は思ったよりは清潔な整頓した町であった。三十連隊の置かれて以来勿論繁華になったことであろうが、元来小領にせよ、徳川時代には村松藩のあった所だけに町民の風儀も悪くない。殊に、一般に士族の子弟の好学心の熾んなことは想像以上であった。従って生徒も真面目で余ほど確りしたところがあるので、学校教育を為す上に於いて最も理想的の土地と思った。

村松は堀直寄の二男直時が、寛政年間に開城した三万石の小藩であったが、学問と武道を奨励し、好学の気風があった。このような旧藩以来の気風が林校長の「質実剛健」の教育精神とマッチし、村松中学校は建学数年にして赫々たる成果を挙げ始める。

第一回入学式は四月二十五日行われた。入学を許可された者は七十二名で、二学級に編成された。入学志願者は九十一名いたが、受験した者は八十三名であったという。入学式は入学許可の宣誓の後、林校長は訓辞として新入生に、自重心と奮励心とを促すと共に順良な校風の樹立と、質実剛健の気風、好学研究の志気を伸ばすよう訴えかけている。また、来賓の第三十連隊長の野澤佛吾（小千谷出身）は松中生に対して奮起を促す挨拶をしているが、第三十連隊の武田中佐はじめ幹部候補生を五・六人派遣し、教練（軍事教練）で生徒を厳しく鍛えていっている。教練の時間は、生徒はゲートルを巻き、行進や匍匐前進などの指導を受けていた。村松中学校は、後の配属将校の様式を創立期から実施し、まさにスパルタ式教育を行っていたのである。高岡禎一郎・山賀守治等秀才組は第三十連隊の背囊を払い下げて貰い、背囊を背負って整然と登校していたという。なお、当時の生徒

明治四十四年三月二十一日、新潟県立村松中学校は中蒲原郡村松町字焰硝蔵の地に設立を認可された。この地は県立村松工業学校の跡で、跡地約三万三千平方メートルと校舎及び生徒用机・椅子等はそのまま受け継いだ。村松は旧藩地であったため、江戸時代より学問を奨励され、自彊館という藩校もあった。明治三十六年に設立された工業学校が長岡に移転するのを機に、この地に設立されることになったのである。その頃すでに村松には、「歩兵第三十連隊」が置かれており、将校の子弟の教育のためにも中学校が必要とされた。

当時の我が国の中等教育は、明治三十二年に発せられた「中学校令」に基づき「男子に須要なる高等普通教育を為す」と共に、近代国家形成期中の堅固な国民と地方の人材養成を目的に展開してきた。日清戦争・日露戦争に勝利し、さらなる近代化を推進するに、国家を支える人材養成は喫緊の課題であった。このような時代背景から村松中学校は創設されたのであった。村松中学校の設立は、県内の中学校拡張の最期のものであった。

初代校長は、島根県立杵築中学校から赴任した林栄太郎である。着任当時三十九歳であった。林校長は松江藩の士族出身であり、体躯は堂々として謹厳実直、温容溢れるが如き人格者であった。林校長は修身と漢文を教え、書もよくした。林校長の教育方針は一言で言えば「質実剛健」であった。「校訓」の第一項には、至誠・従順・勤勉の三綱を主徳とし、第二項には立志・忍耐・克己の三要道を学習訓とし、第三項には質朴・剛健・敢為の三目を鍛練の条目として掲げている。林校長は、学業に心身の鍛練に人格の修養に、一人でも多く立派な人材を輩出するべく、方針を定めたのである。

それを具体的に伝えるエピソードとして、第一回卒業の塚野賢治は、林校長の思い出を次のように記している。

当時は校長の命令には絶対服従でそれに背けば直ちに退学という時代であった。私と式場君は五泉村松間一里八丁以上（約5 km）を自転車で通学した。近郷の生徒も十人位が自転車で通った。その自転車を学校の近くの四ツ角にある文房具屋の「ますや」の前に置いた。たしか十三、四台の自転車が並べてあったと思う。林校長は毎日それを見て大いに感ずるところがあったのであろう。或る日全校生徒を集めて、「ますやの前に自転車が門前市をなしている。自転車で通学するような贅沢は許さん、明日から禁止する！」と言い渡した。それで翌日から仕方なく徒歩で五泉から通うことになった。林校長は剣道とテニスを奨励した。同級の中野二郎君と斎藤三郎君は野球が好きで、各自でグローブ、ミット、バット等を買って野球を始めた。林校長はそれを快く思わなかった。これも生徒を集め



は挨拶も第三十連隊の影響か、教師に会うと直立不動で挙手の礼をしていた。また、上級生に対しても挙手の礼をしなければならなかった。いろいろな面で、本校は第三十連隊の影響を受けていたのである。

主席教諭(教頭)を務めた浮田辰平は、林校長が当時仙台第一中学校の宗像逸郎校長の推薦を得て迎え入れた優れた人材であった。入学式の一ヶ月以上経ってからの赴任であった。浮田辰平は岡山県出身、東京高等師範を卒業した後、当時高知第二中学校で教鞭を執っていた。温厚にして、かつ篤学な好人物であった。最も重要な教務を担当する主席教諭に素晴らしい人物を採用することができ、林校長も満足顔であった。なお、本校の最初の校歌「塵の巻を遠ざけて…」の歌詞は、浮田が校友会の雑誌に載せたものである。

とにかく、優秀な教師を招聘しようと考えた林校長は、まず旧任教島根県立杵築中学校より英語の引野忠親と地歴の田川吉利を招聘していた。二人とも、熱心で優秀な教師であった。また、体操と博物とを受け持った成澤右金太は沖縄県立高等女学校から招聘した。成澤は本県村上町出身であった。凶画の森田豊治郎は、東京美術学校出の若き教師であった。何れの教師も熱心で勉強家であったから、生徒はその感化を受けて、学力或いは徳育の面でも、「県下の模範校」とまで言われるようになるのである。第一回入学生生の堀隆三は「師の面影」という随想の中で、

思い浮かぶどの先生も親切で懇篤な指導をして頂いた。それだからこそ私のような田舎坊主でも卒業までこぎつけることが出来たのだと思うている。良く出来る生徒はより高度に、そうでないのはそれに追い付くようにと、或いは始業前に、又は終業後に、そしてまた夏冬の休業中に指導補習して下されたことは、今思うて感銘に堪えない。

と記している。林校長のリーダーシップの下、教職員も生徒も心をつなげて、村松中学校を良い学校にしているとして奮闘努力していたのである。尚、校章も林校長の考案により制定された。輪郭は松葉四本を菱形に組み、中央に「中」の字を入れたものであった。

第一回入学生は、多士済々、俊秀ぞろいであった。新潟医学専門学校(現新潟大学医学部)に進み、精神病学会の世界の権威者になった式場隆三郎もその一人であった。彼はゴッホやロートレックの研究者としても有名であるが、また一方画家山下清の才能を見出した「伯楽」としても知られる。新潟医学専門学校には岡村三郎、伊藤英治も進んでいる。

この学年の生徒を教えた教職員が秀才として挙げるのが、第一高等学校から東京帝国大学法科を卒業し、外交官になった高岡慎一郎と江田島の海軍兵学校に進んだ山賀守治である。高岡は外交官としてスペイン動乱の際活躍し、力量を發揮した。また、山賀は第二次世界大戦中

大佐として、海軍省に勤務していた。第二高等学校に入学した渡辺浩哉、堀隆三もいた。渡辺は東京帝国大学法学部に進学し、各界で活躍している。また、堀も東京帝国大学法学部を卒業した後官界入りし、警察・経済・地方自治・民政等の地方行政に携わった後、兵庫県教育長になっている。一方、村川啓は陸軍士官学校に進んだ。その他、茂野松治郎と塚野健治は東京高等工業学校に進んだ。茂野は母校村松中学校で教鞭をとっている。また、塚野は後に五泉町長をつとめている。剣道でならした中野二三郎は神宮皇学館に進み、村松高等女学校校長や白山高等学校長を歴任した。澤英三は外国語学校に進学し、後に大阪外国語大学インド語教授になった。タゴールとも親交があり、イスラム思想の研究者でもあった。長島義一は、秀才で紅顔の美少年であったというが、長岡銀行に勤務している。

小鍛冶快因は智山大学に進み、その後南蒲原の寺院の住職になった人であるが、彼は冒険心のある生徒として同級の人々の記憶に強く残っている。その逸事とは、当時学校の隅にある工業学校時代の遺物、高さ二十メートルはある煉瓦の煙突に上り、頂上で見事な逆立ちをやったことである。彼は器械体操が得意であったと云うが、一日にして「英雄」になってしまった。この事件以降、林校長はこの煙突は危険であるとして数日後、人夫を呼んで取り壊してしまった。

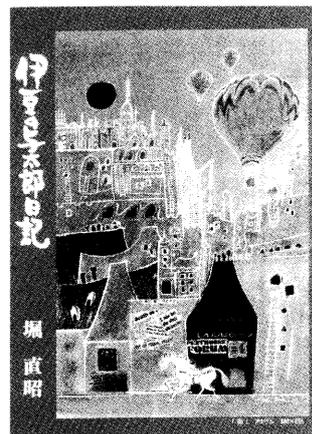
この頃の生徒は、勉強を一生懸命やったが、それだけではなく、人格的に皆の崇敬を集める者がいたり、剛胆な者がいたり、文学青年・音楽青年もいたり、まさに多士済々のエリートの集まりであったのである。

伊豆高原在住画家の

おもしろエッセイ発刊

この度、堀直昭(高8回)氏が平成2年、伊豆高原に居を構えて以来のさまざまな出来事をつづったエッセイ、「伊豆の与太郎日記」を平成19年8月に発行された。筆者は深遠で哲学的で少し哀しい作品であるとあとがきで述べて居られる。どうか皆さんお読みください!

抱腹絶倒の人生模様を覗き見ることが出来ます。



- ・定価 1,470円(税込)
- ・堀氏の連絡先
〒414-0232
伊東市八幡野 1332-37
すいらん荘 6区 53
TEL0557-53-3178



相隣関係

堀川 俊郎 (高2回)

最近、テレビなどで近隣同士の騒動がよく報道されています。相隣関係という言葉に始めて接したのは学生時代でしたが、当時よく例にあげられたのが、隣地の柿の実はとってはいけないが、隣地から伸びてきた竹の子はとってよいと規定されているといわれていました。

この例なども含めて、隣人同士の関係を定めた民法の規定は、基本的には明治時代に定められたもので、隣地との関係について最低限度の配慮すべき事項としてまとめられていました。勿論、現代でも隣接住宅に関するプライバシーの問題などを含めてこれらの規定が適用される場合は少なくないようです。しかし最近では、複雑化する社会状況を反映して、実に多様な相隣問題が引き起こされるようになりました。

例えば、騒音、振動、悪臭など快適な生活環境を壊されることによって起る沢山のめごとです。これらの他にも、ペットの問題、シロアリ駆除や庭木の消毒薬や農薬使用が引き起こす問題、風俗チラシの配布問題など、かつては思いもよらなかった問題が頻発しています。

かつては、このような問題の多くは、町内の長老や、町会長、自治会の役員などが間に入って解決していたようです。また大きな問題になる以前に、隣人同士がお互いに思いやる気持があったため解決されたようです。しかし現代ではそのような仲裁役もいなくなり、またお互いに思いやる気持もなくなり、社会の常識も通用しなくなってしまいました。そうなる様々な隣人間や隣同士のトラブルも法的な解決の場に持ち出されてくることになります。

しかし相隣の問題を解決するには、様々な方法があり常に訴訟や法的手続きをとることがベストとは限りません。

相隣の問題は、周囲の人にとっても問題になっている場合が多く、一人で悩まずに近隣の人にも同じような問題が発生していないか確認してみても、もし同じような被害を訴える人がいる場合には協力して解決にあたることも重要です。また近隣同士の間で発生するトラブルですから、その問題が解決できたとしても、その後地域で居住しづらいような状態になってしまうのは後悔することになります。

例えば、ゴミ置き場をどこにするかなどという隣近所の問題でも、話し合いで合理的なルールを決めることは、健全なコミュニケーションが可能ならばそれほど難しいことではないでしょう。そういう意味では、相隣問題予防の最大の方法は、地域のコミュニケーションがとれるような状態を維持していくということだと思われれます。

相隣問題といっても本当の些細な隣同士のトラブルだけではなくなっています。かなり社会的、構造的な問題も発生しています。これからの高齢化、国際化が進んで行く複雑な社会に新しく発生する問題にも適切な対応が求められてくると思われれます。

三八式歩兵銃との再会

村川 五郎 (高2回)

先日偶々在る所で三八式歩兵銃を手にとりて見る機会があった。この銃とは日本陸軍が太平洋戦争の終わるまで制式銃としていた小銃で、名称の由来は明治38年に制式銃として採用された事を表すものである。明治38年と云えば、日露戦争が終わった年で、以来大正・昭和と40年余り、多少の改良はあったようだが延々と日本陸軍の主要兵器として使われ続けてきたものである。

この銃は全国中等学校以上に軍事教練用として貸与され、我が母校(旧制)にも正確には覚えていないが100丁位は有ったのではないかと。これらは中古ではあるが立派に実弾が発射出来るものであり、上級生は実弾射撃訓練も行われていた。昭和19年入学の我々も2年生になると教練の時間に銃を持たされるようになった。本来ならば、もっと上級になるまで執銃教練は無いのであるが、三年生以上は勤労働員で殆ど学校に居ないし、戦局も逼迫して若者は殆ど軍隊に召集されたので、中学2年生でもそれを補う戦力として期待されていたのである。因みに三八式の全長は130cm、重量は4kgである。敗戦直前で栄養不良の2年生にとってはいさかか持て余し気味だったようである。

振り返って、今の中2といえば未だ両親に甘える年頃で、世間からも大人とは看做されていないが、当時の中学生は立派な大人と位置付けられ、3年生からは予科練(海軍甲種飛行予科練習生)の受験が奨励された。また、高等小学校(中2相当)からは少年飛行兵を始め各種少年兵の募集が行われ、多くの少年達が軍隊に身を投じ、若い命を散らす結果となったのである。

先日、親戚の法要の席で年配の住職と語り合う機会があったが、偶々彼が一年上級生だったため、自然話は戦時中の思い出話になり、配属将校から「お前達はこれから天皇陛下に命を捧げ、靖国神社に祀られて神に成る真に幸せ者である」と訓示されたのが忘れられない。と、しみじみ話しておられた。また、こんな思い出も話された。同級生が予科練に合格し入隊することになった或る日、壮行会をしたいが酒が無い(中3である!)。そこで、化学教室のアルコールランプのアルコールを抜き取って水で薄めて別杯とした。後日、化学の教師がアルコールが無いことに気づき事は露見したが、先生少しも怒らず「そうゆう事なら俺も参加したかったナ〜」と言われたそうである。「一億総特攻」が叫ばれていたあの頃、一度予科練に入隊すれば生きては帰れないものと信じていた時代の話である。

三八式歩兵銃から思いは戦時中の悲惨な過去に広がるのであるが、真に危うい命であった。私も76歳まで生き延びて来たが、これも日本が曲がりなりにも平和を維持してきた賜物であると思う。先の大戦で日本は、320万人の命が失われたという。10代、20代で散らせた先輩達の死を無駄にしないために、これからも平和な日本でありたいと願うのである。



夏の日の思い出

加藤 清治 (高4回)

暑かった夏が過ぎ、秋本番を迎えつつある。今年は74年ぶりに日本の最高気温を更新する等、記録的な酷暑となった。庶民感覚からすれば、赤道に近い南ほど暑いと思われがちだが、全国の最高気温ランキング10位までを見るとそのようにはなっていない。リストアップしてみると次の通りである。

1位・埼玉県熊谷市	40,9℃	2007年8月
同位・岐阜県多治見市	40,9℃	2007年8月
3位・山形県山形市	40,8℃	1933年7月
4位・和歌山県かつらぎ町	40,6℃	1994年8月
同位・静岡県浜松市	40,6℃	1994年8月
6位・埼玉県越谷市	40,4℃	2007年8月
同位・山梨県甲府市	40,4℃	2004年7月
8位・群馬県館林市	40,3℃	2007年8月
同位・群馬県高崎市	40,3℃	1998年7月
同位・愛知県愛西市	40,3℃	1994年8月

となり南の沖縄、九州、四国、中国からは10位以内にランクされた所は無く、4ヶ所は何れも今年の8月16日に記録されたものである。この分析や解説は専門家に任せることにして話を進めよう。

話は62年前の夏に遡る。あの日も本当に暑い日だった。その昼下がり、ラジオの前で正座したまま玉音放送に耳を傾けるオフクロの姿が今でも鮮明に想い浮かぶ。放送中は雑音がひどく、合間に聞える語句も難解で我々国民学校の児童(小学生)には理解し難いものだった。学校で軍国神話や偽りの戦況を聞かされマインドコントロールされてきた我々には戦争に敗れる事など考えられなかった。敗戦を知ったのは一家揃った夕食時であった。

「堪へ難きを堪へ、忍び難きを忍び以って万世の為に
太平を開かむと欲す……」

これは終戦詔書の一節で、毎年8月15日の終戦記念日が来ると、ドキュメンタリー映画や終戦ドラマと共に流され、我々の脳裏に深く刻まれている。

8月15日は戦争が終結した日として多くの日本人に認識されているが、これに異を唱える人達もいる。彼等はポツダム宣言が受諾された8月14日、若しくは降伏文書が調印された9月2日が戦争の終結だと説く。実際、欧米やアジアの多くの国では9月2日を大戦の終結としている。8月15日を特別の日と定めているのは、日本以外で韓国と北朝鮮ぐらいで、世界的にみても極めて少数に過ぎない。

62年前に終わった戦争を巡る国家間の認識にずれがあることは止むを得ないとしても、そのことを踏まえて世界の人々と向き合っていきたいものである。

故郷の古屋処置と、旧友との懇親

鈴木 健司 (高4回)

私の故郷は村松の旧名春日町です。そこの古屋で一人暮らしをしておりました姉が、昨年の9月上旬に亡くなりました。「一周忌の法事が済むまでは……」と、其の俣にしておきました古家をこの度、取り壊して来ました。

事前の行事として「仏壇の魂抜き」と、「お稲荷さんの石造り祠」の移設(城址公園内の稲荷神社の脇へ)と、初体験行事を執り行いました。稲荷神社について付言いたしますと、村松藩の藩祖堀田後守が稲荷神社への信仰が厚く、城内に稲荷神社のお社を祭っておられました。その影響で、旧村松城下町には「お稲荷さんの石造り祠」を屋敷内にお祭りしていた家がかなり在ったのです。私の70余年の人生経験に又、新しい体験を付け加える出来事になりました。

我々の同期会は地元村松の幹事役が企画し、隔年ごとに場所は殆ど新潟県下で開催しております。今年はその同期会がお休みの年でした。

そんなことが下地になったのでしょうか、地元の同期生のゴルフ愛好者達が「秋の懇親ゴルフ会を開催するので、貴君も参加しませんか。東京の同期生のゴルフ愛好者もお誘いしてみてください」という次第になり、新津CCで10月23日(火)に1ラウンドプレーをやりました。参加者は地元から5人、東京から2人の7人で、2組のプレーとなりました。

新津CCは、現在は新潟市秋葉区となりましたが、旧新津市内の秋葉山に展開する丘陵コースです。新潟県下でも2番目に開場された、歴史を誇る名門コースです。複数の池超え・谷越えコースがありハンデキャップ1の1番ロングコースは556ヤードのタフさです。一同シルバーティを使わず、レギュラーティでプレーしました。地元の新津CCメンバー氏が44、46と90のスコアで廻られたのはさすがでしたが、私のスコアは非公開とさせていただきます。

古屋の取り壊し準備・取り壊し着工・ゴルフ会前夜の懇親食事会・新津CCでの懇親ゴルフ会と、思いで深い故郷での数日でした。



当日の参加者7名
コースと食堂にて
2007年10月23日



平成 19 年度「松五会」

酒井 俊昭 (高5回)

初日、総会は和やかに

平成 19 年 9 月 26～27 日、第 5 回生たちの同期会が KKR ホテル東京で開催された。5:30、雲村俊造氏 (以下敬称略) の開会挨拶で始まる。

6:00、テーブルに着く。司会の向山律子がマイクの前に立つ。「今年は 28 名の参加ですが、出られない人にはそれなりの理由があります。歩けるなら出席できます。それが出来ないから欠席なのです」

次いで亡き友達に黙祷を捧げた。226 名が卒業し、既に約 50 名が他界している。酔わないうちにと 1 分間スピーチに入った。

1 分間スピーチ

白組 今も 2 病院を掛け持ちする馬場謙一、診療を止めても忙しいという石川滋医師、江戸の姿を描き続ける雲村俊造は別格と言えよう。

大病から生還した幸運組も多い。昨年、大腸の摘出手術を受けたが今は油絵を描く近藤真一。3 年前に癌の手術を受けたが、海外旅行を楽しむ佐藤良平。50 歳で脊髄に腫瘍の手術を受けたが、良性だった星長夫。2 度の脳梗塞の発作に襲われたが元氣一杯の樋口栄二郎。

もちろん病氣知らずもいる。辰口基夫は辻堂駅前で理髪店を営む。境原博夫は朝酒、昼は風呂に入り官能小説を楽しむ。熊倉芳夫はダンスとテニスが健康の秘訣と説く。山崎豊吉は長寿に感謝する。吉田武は総入歯だが他は健全らしい。石川堯晃、坂上洋司が五泉から遅れて到着。すでに会が盛り上がり、良く聞き取れなかった。

赤組 高濱つる子は観劇を楽しみ、年 1 回は海外旅行をする。阿部ミサ子は身体丈夫で遠出は自由。木村良子は五泉駅前住まい。石塚添子は主人について札幌から熊本と歩いたが群馬を終の棲家に。小川美沙子は姑を 8 年看たが、看護婦経験が生きた。酒井カヨの主人は腕の良い箏箏職人。山口まで配車に行った。梅田シュンは五泉市

役所を勤め上げた。佐々木恵美は旅行三昧の生活だ。8:00 に終わって第 2 会場に移動。盛り上がり過ぎて、後はまるで記憶が無い。皆も、よく部屋まで戻ったものだ。

2 日目 江戸城を歩く

7:50、12 階の朝食会場へ。35 万坪という皇居が見下ろせた。まるで樹海だ。空気が浄化されているせいか、気分がいい。9:30、ロビーに集合。本日参加の金子鶴男、塩田京子、松永比呂が加わる。ホテルから歩いて行ける。

大手門から入って三の丸尚三館へ。天皇家の宝物 3,000 点が収蔵されているがあいにく休館。ここを紹介したかった雲村は悔しがる。

松の廊下跡を過ぎて高さ 40.5 メートルの天守台跡に出た。この上に 11 メートルの五層から成る天守閣が聳えていた。これが木造建築の限界だそう。二の丸庭園を経て元吹上庭園に建っていた諏訪の茶屋へ。昔、大奥女中たちが心を癒した場所でもあったとか。12:00 ジャスト、平川門から場外へ出る。

地下鉄を乗り継いで銀座に出て、魚や「一丁」で別れの乾杯。来年また会うことを誓い合って解散となった。



宴会に出席した松五会の皆さん

昭和 28 年度 3 年 1 組クラス会

沢出 起允 (高6回)

昭和 28 年度 3 年 1 組のクラス会が去る 10 月 28 日、29 日に弥彦温泉・名代家において開催された。古希すぎて出席者は少なく 14 名と過去最少となる。

中老人の集いは、明るい話題よりも体調不良や病気・手術・薬などの話が主流を占め、その上、繰り返しくドクトル語る者多し。また、酒豪だった者が呑めなくなった、車で来た連中は翌日の酒気帯び検問を極度に心配しながらチビッテ飲む姿など、いとさびし。

されど酒代が少なく幹事はホッ!

我々もすでに老齡中期に突入した。入院先から一時退院して来た人、不自由な身体で家族に送られての参加者など……何はともあれ老齡者たちが楽しいひと時を過ごし、シワクチャ顔にも晴れやかな表情あり。

弥彦山・神社・公園と紅葉の見ごろで越後の秋を満喫。



越後弥彦温泉・名代家 = 2007. 10. 28
(概要) 担任・飯利五郎先生 (故人)、卒業生 43 名
物故者 7 名、無返答者 5 名 = 欠席 17 名、出席 14 名



母校同窓会総会

ろんだんの「かるた」

渡辺 八郎 (高3回)

平成19年8月19日(日)午後5時、母校の同窓会総会が村松城町の割烹「新龍」に於いて開催され、総勢84名の参加であった。東京同窓会からは杵渕副会長を始め、深見、塚田、石黒、大橋の5名が参加した。

参加者の内訳を見ると、今回も20回生以降の参加者が39名を数え、阿部、浅田両副会長の名コンビ振りがかがえる。東京同窓会では、19年度の総会参加者数こそ127名を数えたが、20回生以降の参加者が3名であった。この状況を改革し、新会員の増加を図ることが東京同窓会に課せられた大命題であると思う。

さて、18年度の決算が大幅に好転したことにより、19年度予算編成も積極的になったようで、2011年開催の100周年事業への対応も万全のようである。支出の中で、会員連絡・通信費はかなり高額になるので、常に調査研究の必要があり対応が望まれるところだろう。

小島校長より村松高等学校の近況について報告があり、大学等の進学率が少し上がって、大学合格25名、短大合格9名、専門学校49名の進学状況とのこと。スポーツ関係では剣道部、野球部等の活躍が、そろそろ人材も揃って来たので大いに期待しているとのこと。会員諸氏



杵渕副会長の挨拶

にも何かとご声援をお願い致したいところである。懇親会は、あちこちに同期の輪ができたり、互いに自己紹介したりして笑顔の話し合いが溢れていた。途中OBによるプラスバンド演奏があり、最期も、プラスバンドに合わせて校歌・応援歌の熱唱が続き、大盛りりの内にお開きとなった。

広報・大橋 記



懇親会風景

最近、「いろはかるた」取りなどの遊びは殆ど見るものがなくなりました。今様は多種多様な遊び楽しみ方があり、古びた遊び?には目もくれなくなったようです。が、私達世代の昔人?には、双六と共に雪の正月遊びの定番でありました。それ故「かるた」に読まれる文句は大抵口吟むことが出来ました。幾度か口吟むうちに言わんとしている意味が朧げに解かったような気がしたものです。「江戸いろはかるた」の「ろ」の段には「論より証拠」という「かるた札」があります。『論をせんより証拠を出せ』ということですが最近の世相では、悪事を働いて捕えられても何とか体裁の良い口上を述べ逃れようとする者がいます。が、いろいろ問い詰められ証拠を見せられては降参し、平身低頭、唯唯釈明に徹する光景をよく目にします。己の悪事がバレまいと懸命に工作するが『天網恢恢、疎にして漏らさず』で、天誅を避けることは出来ないようです。最初から覚悟を決め、「大和男の子」らしく腹を決めた方が立派だと思いますが…?

さて「上方いろはかるた」の「ろ」の段では、「論語読み論語知らず」というのがあります。江戸時代の学者は大抵は漢学者で、漢学といえば儒学、儒学の中心は四書、特に孔子の論語という流れになっていたようです。しかるに「論語読み」とは儒学者であり道徳を教える先生だったのでしょか。察するに『道徳書を教える先生が、実生活ではかなり不道徳(非常識)であつたりする』とでも解釈しますか。古今、道徳書の教えはなかなか守れないものだそうです。だったらいつそのこと、「論語読まずの論語知らず」の方が世の中生き易いかもしれません。

旧制中学校の頃、先輩から『孔子・孟子が酒飲んで、一杯機嫌でホラ吹いた、理屈なんかは知るものか、嫌な漢文止めちやえ』という教義?よろしく、節を付けて教わったことがあります。その教訓を忠実に守ったせい未だに漢文(儒学)に縁が無く、「論語知らず」の体たらくな人間で生きています。

儒学の発祥の地中国では「仁」、流れて韓国では「孝」、そして日本では「忠」という儒教的徳目があったようです。最近どの国もこの誇るべき徳目?が消え失せて、「欲」だけが横行しているように感じられます。せめて国家間では「信」とか、人間社会では簡潔にして「情」ぐらいを基調とした徳目が欲しいものです。

同じような諺で「紺屋の白袴」・「医者の不養生」・「陰陽師の身の上知らず」等があります。いずれも、この手の諺は「説くことありて、行を為さず」とでもいいでしょうか。たかがこんな「かるた」の文句でも、我々凡人に与える箴言としてみたら貴重な人生訓ではないでしょうか。たまには『温故知新』、軽妙な「かるた言葉」のパロディーに浸るのも一興かと存じます。



——こんな生き方もある——

鮭の放流で能代川蘇れ！

羽下 勢栄 (高12回)

○能代川の概要

宝蔵山を源流とし南部郷の穀倉地帯を潤し、村松、五泉、新津を流れて小阿賀野川に入り信濃川へ合流。九十九曲川と言われて沢山の蛇行を繰り返す、数多くの魚が生息する我等が故郷の川である。大雨になると河川一帯が水害に悩まされ、特に平成12年7月の豪雨による被害は甚大であった。その後、県の災害対策事業で蛇行を直線に幅広く改修し、堤防にはリンリンロードがほぼ完成。四季を通じてサイクリング、散歩、ジョギング等多くの市民が楽しく利用している。

○能代川の変遷

昭和20年頃までは住民の大切な生活用水であり、夏は大勢の人々が泳ぎ、魚釣り等で賑わう大切な憩いの川だった。清流にはカワセミが数多く見られ、魚の種類も多く沢山の雑魚やカニが捕れたので、それを町の市日に販売して生活の糧にする人々も多かったそうである。

昭和30年頃までは鮭、鱒の遡上もあつたが高度経済成長に伴う家庭の洗剤、町工場の汚水、除草剤の普及等で40年代には鮭、さくら鱒は油臭くて食べられなくなり、50年頃から鮭、鱒の遡上は見られなくなったと言う。しかし、最近では川の水も大変きれいになった。

○鮭放流の経緯

加茂川漁協能代川支部として20数年前になるが当時70才の初代組合長が幼少から親しんだ能代川への愛着から熱い信念で始められた。組合長の川に対する考えを拝聴し、私は深い感銘を受けた一人である。自然の水、空気、土のいずれかが汚染されると、人間や生物に重大な影響を及ぼすと言う。小河川の上流にゴルフ場が出来るとその下流では小魚や小生物は棲息出来なくなって、つまり死の川となる。こうした事から能代川の水を何とか自然できれいなものにする運動の一環として鮭の放流を決意し、鮭に命がけで取組み始めたと言う。孵化場の土地は組合長個人が購入しその後、組合に寄贈。孵化場の設備は全て国、県の補助金がなく、組合員のボランティアで力を結集して造ったものである。

○能代川鮭鱒増殖組合の年間計画

新潟県には28の放流河川があり、当所の規模はまだ最小だと思う。組合では年間捕獲数1万尾を目標に取組んでいる。毎年2月の定期総会で各種行事、方策を決定し実施している。

* 4月下旬：能代川水辺公園内清掃

* 6月中旬：能代川水辺公園内草刈

* 7月上旬：山女放流 ボランティア

* 7月中旬：能代川水辺公園、サケの路、楽新保広場のクリーン作戦

楽新保→楽しむ(楽々)を保つ、愛称

* 7月下旬：鮭放流 ボランティア

能代川水辺公園の草刈

* 8月下旬：「能代川の魚を食う会」開催

* 10月上旬：ウライ及び捕獲籠設置、次の日から毎日組合員3名づつウライ清掃と鮭の捕獲作業

ウライ→河をせき止め魚が登らないようにするもの

* 11月上旬：鮭の不法捕獲禁止看板多数設置

* 11月中旬：鮭つかみ取り大会

* 11月中旬より採捕場の動員を毎日8名態勢

* 12月1日、3日の2回採卵、オス700尾、

メス500尾準備、全組合員参加

* 12月上旬より孵化場担当者2名で水温、水管理、

12月18日より餌付け開始

* 3月23日：本州鮭鱒増殖振興会による稚魚検査

* 3月24日：午前中で餌付け終了

* 3月26日：県の検査合格、酸素ボンベと水槽を積んだトラック2台でビストン輸送、放流

○小生が鮭仲間になった動機

昔、能代川に鮭組合が出来ると聞き知人宅に伺うと、最期の申込者が帰宅した後だった。欠員が出たら連絡を貰うことにして帰ったが数年後、42才の時に連絡がありとんで行ったのを想い出す。そして、組合長の話に胸を打たれた。鮭は生き物で大変な労力と出費を要するが、第一には水が命である事。捕獲、採卵、稚魚飼育、放流まで長期間を要する事。また孵化場は井戸水利用であり、停電になれば全てが終わるから一瞬の気の緩みも禁物である。しかも稚魚は県の検査に合格しないと買上げてもらえない事など。当時、まだ勤めていたのでお世話になった方々への恩返しになるのではと思い、ボランティアを考えていたが運良く鮭仲間に入れていただいた。

○組織と孵化場の改革

平成14年、加茂川漁協組合長の提案で能代川支部から県の許可により能代川鮭鱒増殖組合として独立。20年間も組合長単独で孵化場を担当し、年間の経費も大半を提供して水質改善の事業を続けて来られたので県当局



では、組合長が亡くなれば能代川の増殖組合は終わりかと囁かれていた。しかし、平成14年から孵化場の補助者として2名が新たに手伝う事となり、小生もこの年から孵化場に通うことになった。16年度に念願の水槽を2基造り17年春、117万尾の放流に成功し組合長の永年の夢を実現。18年度から組合長は自宅待機、孵化場担当5年目になった。これを機に担当者2名で北海道にて2泊3日の研修に参加。帰ってから最新の技術で取り組むため議論を交す。その間に研修で日本海区水産研究所の清水課長と出会い全面的な指導を乞うと快諾され、12回も職員随伴で指導された。その結果、孵化場創始以来の孵化率92%の成績をあげ県下で1位になった。清水課長には大変感謝すると共に、今後も皆で研鑽を積み改革を進める決意である。

○地域の連携について

能代川多自然型川づくり研究会の参加で大きな成果をあげた。ふるさとの川・能代川の創造をテーマに能代川鮭鱒増殖組合、九十九曲の会、能代川魚を考える会などの民間団体、自然環境・生態系・河川などに詳しい有識者やコンサルタント、新潟地域振興局の技術職員などで構成する「多自然型川づくり研究会」を立ち上げ、先遣地研修、講演会などで研修を重ねた。

○研究テーマ

- ・自然環境と生態系の保全と創造による豊かな水辺空間。
- ・地域住民の利活用による賑やかな水辺空間づくり。
- ・住民参加と協同による地域ネットワークづくり。

16年度一部実施。

17年度検討報告、纏め。

17年11月、サケの路・能代川水辺公園たのしんぼ・楽新保広場完成、事例発表。

同11月施行イベント・サケの掴み取り大会実施450名の参加。

○今後の課題と推進

魚の放流など人工的な手法ではなく自然増殖で多様化を図る。その他、16年度から県による鮭の有効活用の指導に沿って事業推進のため組合で検討し、イクラ販賣の拡大と鮭の加工を研究し、地域の特産品と鮭の加工品をセットにした地域振興策を模索している。地域住民と共に自然環境を守り能代川水辺公園の整備を更に進め、ここ数年で安定した鮭の遡上が1万尾と予想されるので、能代川水辺公園内鮭捕獲場が五泉市の目玉観光資源として発展することを夢見ている。

○地域の学校との関係

鮭の発眼卵を毎年、大蒲原小学校と橋田小学校に提供

し、生徒達が水槽で飼育、放流している。特に大蒲原小学校は孵化場に近いので冬期間には1時間の授業に参加し組合長が能代川の変遷と鮭の一生について話し、児童も真剣に質問をしている。また自然環境の保護を説き、くれぐれも川にゴミ等を捨てないよう啓蒙に努めている。今年は見学のお礼に「能代川をきれいにしよう」と云う生徒手作りの立看板3枚の寄贈を受けたので、現場写真を添えてお礼を述べた。その後、さらに五泉市立五泉小学校、五泉第一幼稚園、新津第二小学校の3校から発眼卵の希望があり提供した。特に新津第二小学校では「新たな二小教育の創造」として鮭の稚魚の放流をテーマにPTA、地域と一緒に本格的な授業に取り組んでおられる。自然環境破壊が地球規模で進むなか、ささやかながらどの川も清らかな自然の恵みとなることを祈っております。終わりに初代組合長のご冥福をお祈り申し上げます。

鮭の放流数と捕獲数

年度	放流数	捕獲数
平成14年	400千尾	605尾
平成15年	420千尾	1462尾
平成16年	676千尾	2734尾
平成17年	1170千尾	3177尾
平成18年	813千尾	6320尾
平成19年	821千尾	楽しみにしている

あとがき

平成19年の3月上旬、加藤系一さん達が1泊2日のバス旅行を計画してくれた。車中、男性たちが鮭の稚魚がどうのこうのと話していたが、私は興味を覚えて話しに聞き入っていた。翌日、暗くなってから村松へ帰り着いたが、車中では又もや鮭の話が続いて、羽下さんはなおも熱っぽく語ってくれた。村松で卵から鮭の赤ちゃんにして放流し、毎年決まったように成魚になって帰ってくる。まさにロマンである。なんと知らないことが多いのだろう。数日後、ぜひ鮭の話を書いて貰いたいと電話で依頼し快諾を得た。

村松をスタートした稚魚がベーリング海のアラスカ海流域まで遊泳、また折り返してベーリング海、そしてオホーツク海を経て、太平洋岸の親潮に乗って南下するものと、もう一つは北海道、青森の海を回遊して日本海に入ってくるものになる。他の川には目もくれず村松の能代川に帰って来るとは、何と壮大な旅なんでしょう！鮭の話を尽きる事無く語る羽下さん！

深見 洋子 (高7回)

あけび

新保 優 (高10回)

私たちの子供の頃は食べものに事欠いた時代だったので、おやつはもっぱら山野から、自分たちで調達するものであった。

春先の山つつじの花(甘酸っぱくて以外においしい)から始まって、グミ、桑の実、野イチゴ、山ぶどう、栗、柿など、四季折々、食べられるものは何でも口にしていた。

その中でも、秋にとれるあけびは、たまにしか食べられないごちそうであったので、その熟す頃になると、よく探しに歩いた。川に沿った林の中がポイントであったが、ほかの子との競争が激しく、見つけても手の届かないところだったり、やっと見つけた実が未熟なので、熟して口が開くのを待っていると、人に先を越されて悔しい思いをさせられたりした。

春先にたくさんの花を付けても、実を付けない蔓が多いのを子供の頃に見てきたので、あけびは実付きの悪い植物だとずっと思っていた。しかしあけびは、雌雄同株ではあるが、実を付けるには他の木の花粉が必要なことを最近知った。

垣根や門にあけびをはわせた家をときどき見かける。そこに大きな実が鈴なりなのを見てうらやましく、どうするかと不思議であったが、実際には、数本をまとめて植えればよく実を付けるようだ。

数年前、庭のつげの木の下に小さなあけびの苗を見つけた。小鳥が種を運んできたらしい。そこでさらに2本ほどを調達し、盆栽にするつもりで、鉢植えにした。しかし管理が大変な上に元気もなくなってきたので、早々にあきらめて地植えにした。

地植えして3年目の今年、初めて花をつけ、しかも不ぞろいながら、10個以上も実がなった。



家で実ったあけび

あけびには、5枚一組の葉を付け、熟すと実の外皮が茶色になる‘アケビ’と、葉が3枚で、実が青紫色の‘ミツバアケビ’、そして5葉で葉の縁に切れ込みがあり、両者の雑種とされる‘5葉アケビ’の3種があるそ

うだ。しかし育てているあけびは、素性のはっきりしない雑種のような。実の色は紫がかっているが、白いもあり、実を付けたつるには3葉と5葉の両方が出ている。ただ蔓がこんがらがってしまい、3本のどれが実を付けたのかははっきりしない。

あけびの果肉はゼリー状で、癖のない甘さがあり、上品な味がする。しかし黒い種がぎっしり詰まっていて邪魔であり、それを噛むといやな苦味が口中に広がる。何十年ぶりか口に口に、改めてそれを実感した。

あけびがバナナのように種無しであれば、一級の果物になれると思う。バイオ技術の発展がめざましい今日、その開発は夢ではなからう。知識と技術があれば、自分でやりたいくらいである。

あけびの外皮は厚くて柔らかく、見るからにおいしそうであるが、とても苦い。それを焼いたり、油でいためたりすれば食べられるとは聞いていたが、まずそうで、試す気にはならなかった。

しかしその後、会社の同僚から、あけびの実の皮がおいしいという話を一度ならず聞かされた。

最近になって、近くの家で、あけびが棚作りされているのを知った。聞けばその実がおいしいので、食べたくて栽培しているのだそうだ。それも皮のほうである。

年のせいか、それとも流行に載せられたのか、以前はまずいとしか思わなかった、苦いゴーヤ料理を進んで食べるようになった私なので、これを機会に、苦いのを覚悟で、あけびの実の皮を試食することにした。

教わったように、皮の内側に味噌を塗ってそこに紫蘇の葉を貼り、油をしいたフライパンの中で、両面をこんがり焼き上げた。

焼きすぎて、紫蘇の葉が焦げてしまい、味噌が多すぎてすこし塩辛かったが、苦味は薄くなって油や味噌とよく合い、柔らかくて、予想を超えた味だった。しっかり料理して、味付けを工夫すれば、酒の肴に絶好の珍品になりそうだ。

雲村俊慥さん(高5回)

第七弾 豪華絵巻で楽しむ

「大奥のしきたり」 颯爽発刊

第六弾「大奥の美女は踊る」徳川十五代のお家の事情が発売好評につき増版、増刷です。

第七弾「大奥のしきたり」は全ページがカラーで絢爛豪華の絵・イラストと共に魅惑の世界を読み解きます。それに大奥のお清めの式に歌われた「君が代」が日本の国歌になっています。さらに大奥と聞くだけで、あれは將軍のためのハーレムだという先入観しか持たない人は、先ず真っ先に紐解いて頂きたい本です。必読ですよ！今までに無いA5版の横長で、厳選8作品ぬりえ付き。書店の新書コーナーにて1,300円(税別)で発売中。

(鶴)



第8回親睦ゴルフ会開催

平成19年10月25日(木)、松高東京同窓会の第8回親睦ゴルフコンペが、埼玉県の入間カントリー倶楽部に於いて開催された。今回も体調不良などにより参加者が少なく、皆さんの奮起を切にお願い致したい。ゲーム後、パーティと表彰式で一息入れ、来春の再会を約し散会となった。今回も亀山、吉井氏ご二人のご尽力に多謝。

成績(敬称略)

優勝・佐藤克、準優勝・大橋貞夫、3位・片柳ムツ

参加者名(順不同・敬称略)

1組 亀山知明、瀬倉武志、佐藤克

2組 鈴木輝雄、築野理恵子、片柳ムツ

3組 吉井清、大橋貞夫



お疲れさま

第9回親睦ゴルフ会のお知らせ

平成20年4月3日(木)、入間カントリー倶楽部に於いて第9回親睦ゴルフ会を開催致します。

参加ご希望の方は下記までご連絡ください。

吉井 清 (高8回) Tel.&Fax042-527-6482

亀山 知明 (高3回) Tel.042-572-5096

——個展のお知らせ——



草もみじ(尾瀬) F12



モンサン ミッシェル(フランス) F50

第10回 小出博三氏(高8回)油絵展

- 会期 '08/3月2日(日)~3月8日(土)
AM11:00~PM7:00 最終日はPM5:00まで
- 会場 東京交通会館B1(シルバーサロンA)
千代田区有楽町2-10-1 Tel. 03-3215-3826
JR線 有楽町駅 京橋口 下車正面
地下鉄 有楽町線 有楽町駅 下車A8出口
アトリエ●〒274-0812 船橋市三咲7-22-20 Tel.047-448-9632

越後路の思い出づくり

深見 洋子(高7回)

「あなたの笑顔に会いたいな!を合言葉に計画した3年3組のクラス会。

臥龍原頭幾星霜・声高らかに歌った私達の青春。今もあの学舎から見た臥龍が丘の緑は、深く鮮やかでしょうか。そんな感傷を持ちながら青春の尽きせぬ思い出を、菊の香薫り紅葉彩る湯の里で語り明かしましょう。」

こんな案内状が届き、今回が最後とのこと、21名が岩室温泉「ゆもとや」に集合。皆で肩を組み、「高校三年生」の大合唱。とても楽しい一泊旅行でした。



村松高校7回生3年3組 平成19年10月28日
於 岩室温泉ゆもとや



2007年、国内の主な出来事

- 1月・11日、1910年創業の不二家が消費期限切れ牛乳を使用したことが発覚し洋菓子販売を一定期間休止
 - ・東京都の2006年度の税収入は過去最高の4兆9千億円の見通し(都発表)
 - ・21日、宮崎県知事選挙で東国原英夫氏が初当選
 - ・インターネット調査結果—位置がわからない都道府県は①島根21.7%、②栃木19.5%、③福井17.6%、④群馬16.3%、⑤鳥取15.2%—④北海道
 - ・18日、暖冬で雪国に雪なくゴルフ場の営業続く
 - ・31日、日経平均17,383.42円、米1ドル121.32円
- 2月・18日、第1回東京マラソン参加者26,058人
 - ・2006年、国内での出生数112万2278人
- 3月・20日、都心の桜開花(平年より8日早い)
 - ・25日、能登地震、輪島市で震度6強
 - ・東京都の1月1日現在の推定人口は1269万人
- 4月・大手12生保で不払い247億円が発覚
 - ・27日、丸の内に新丸ビルがオープン
- 5月・3月末調査、NTT東・西日本の公衆電話39万台(NTT発足当時の1985年は91万台)
 - ・5日、吹田市「エキスポランド」でジェットコースターが脱線し1人死亡19人けが
 - ・男子ゴルフツアーで杉並高校一年の石川選手が優勝
 - ・28日、松岡農林水産大臣自殺(事務所費問題)
- 6月・社会保険庁、年金管理のズサンさ社会問題となる
 - ・14日、関東甲信地方梅雨明け
 - ・北海道ミートホープ社がコロケに偽ミンチ使用発覚
 - ・20日、渋谷シェスバ従業員施設爆発3名死亡
- 7月・2日、三鷹〜国分寺間下り線が高架開通
 - ・4日、久間防衛大臣「原爆投下しょうがない」発言で辞任
 - ・5日、赤城農林水産大臣の事務所費問題浮上
 - ・13日、ヤマダ電機が池袋駅前に出店
 - ・14日、台風4号が九州四国を縦断
 - ・17日、中越沖地震発生(M6.8)1万人避難

- 7月・06年の平均寿命は男性79歳、女性85.81歳
 - ・29日、参議院選挙=民主党が第1党となる
 - 8月・2日、赤城農林水産大臣辞任
 - ・横綱・朝青龍が地方巡業休場届を提出しモンゴルでサッカーに興じ、二場所出場停止処分
 - ・3月31日現在の日本の推定人口は1億2705万3471人
 - ・16日、熱中症で死者11人 最高気温は熊谷市、多治見市で国内過去最高の40.9度を記録(全国で猛暑)
 - ・20日、那覇市空港で中華航空機が炎上、全員脱出
 - ・米1ドル115.28円、日経平均15,732.48円
 - ・22日、高校野球選手権で佐賀県立佐賀北高が初優勝
 - ・25日、第11回世界陸上選手権が大阪で開幕
 - ・26日、名古屋で女性を拉致し強盗殺人事件
 - ・27日、内閣改造…第二次安倍内閣発足
 - ・28日、全国で皆既月食…関東は曇り観測不可
 - 9月・2日、遠藤農水大臣が補助金不正受給で辞任
 - ・3日、社会保険庁と市区町村職員による年金保険料3億4274万円の横領が判明(10/1現在4億1321万円)
 - ・6日、台風9号小田原付近へ上陸し関東縦断
 - ・16日、安部首相辞任…在任期間365日
日本の人口65歳以上は2744万人、総人口の21.5%
 - ・25日、福田内閣発足
 - ・26日、大相撲・時津風部屋で時太山が6月急死事件発覚
 - ・27日、ミャンマー・ヤンゴン市で日本人カメラマンが治安部隊に撃たれ死亡
 - ・30日、プロ野球パ・リーグ日本ハム優勝
 - 10月・1日、郵政民営化「持株会社・日本郵政」スタート
 - ・2日、プロ野球セ・リーグ巨人優勝
 - ・6日、生保の契約者へ不払い金、合計910億円判明
 - ・23日、伊勢・赤福が売れ残り商品の再利用を認める
 - ・27日、英会話学校NOVA経営破綻し会社更生法申請
 - ・29日、防衛省の前事務次官が軍需専門商社に200回を超えるゴルフ接待で衆議院特別委員会が証人喚問
- 原稿締め切りの関係で11月、12月の出来事は掲載を割愛させていただきます。

編集後記

明けましておめでと〜いっぺい
本年もよろしくお願ひいたします。

今回、村松在住の羽下勢栄氏から初めて寄稿して戴き感謝しております。能代川と鮭の話は素聞にして何にも知らず、この度、原稿を読んでビックリしたり感激したりしています。鮭の稚魚が色々な難関を突破しながら世界の海を泳ぎまわり、また、生まれ故郷の能代川に戻ってくると云うサイクルを作り上げた方々に対し、心から敬意を表するものであります。

小島学校長からは、真に格調の高い文章で旧制中学の創設期を書いていただきました。当時の高邁な信念で勉学に励まれ、果立って行かれた第一期生の活躍振りは我々後輩にとって非常に大きな誇りであります。大変な手間をかけて各種の文献を調べて下さり、快く引き受けてくださいました小島学校長には心より感謝申し上げます。

この原稿を読んでいると、当時の教育を受けた人達が、現代の政治家や官僚と入れ替っていたならば、今日のような不祥事など絶対にはあり得ないだろうと、儚い夢を持ってしまいます。拝金主義は人間を如何に堕落させるか、しつかり学ぶ必要があるとおもいますが如何でしょうか？

皆さんの原稿、俳句、写真など募集しています。左記宛までお送りください。お待ちしております。

TEL: 158-0094

世田谷区玉川4-20-8 大橋貞夫

E-Mail: sadao@gb4.so-net.ne.jp

平成20年1月 第44号

表紙の題名・題字は佐伯益一氏(旧中27)書

発行人 新潟県立村松高等学校東京同窓会 広報委員会

新潟県立村松高等学校 東京同窓会事務局

〒201-0005 狛江市岩戸南2-14-14

Tel & Fax 03-3488-2117 (石黒)